

【記録】令和6年度 第1回徳島県立池田支援学校学校運営協議会

1 日 時

令和6年6月12日（水） 13:30～16:00

2 場 所

徳島県立池田支援学校3階プレイルーム

3 日程及び会次第

13:15～13:30	受付
13:30～14:00	学校見学（授業参観）
14:00～14:10	休憩
14:10～16:00	学校運営協議会
	(1)開会
	(2)学校長挨拶
	(3)委員自己紹介
	(4)役員選出
	(5)会長挨拶
	(6)協議
	①学校経営方針・グランドデザインについて
	②学校評価及び学校の取組について
	③各委員からの提言等について
	(7)各部会における協議
	(8)第2学校運営協議会について
	(9)閉会

4 協議における委員からの意見・感想

委 員	○本校高等部の進路決定について、生徒、保護者の希望もある中、高等部期間中どのくらいの回数の進路指導や進路相談があるのか知りたい。 ○美馬分校の防災学習に関して、教員と一緒に生徒も防災士の資格取得をする機会を設定してはどうか。
事務局 （本校）	○1年生は、年度末に本人、保護者、担任、進路担当者で進路相談を行っている。3年生の年度初め（4、5月）も、同様に進路相談を行っている。特に3年生に関しては、福祉サービスの関係機関の方にも参加していただいている。加えて、家庭訪問や懇談の機会を通じて担任と進路相談を行い、希望等から実習先を決めている。さらには、実習先を進路先につなげていっている。

- 事務局
(分校)
- 教員と一緒に防災士の資格取得することで、取得時の講習では教員に相談しやすく勉強のやりがいがあると思った。生徒の中に興味があり学習が身につくような生徒がいれば、進めていきたいと思う。教員については、多くの教員に案内を勧めていきたい。
 - 防災について真剣に考えていかなければならない。教員については、複数名が資格取得しているが、生徒も教員と一緒に取得することについても、可能な限り、検討していきたい。
- 委員
- 作業学習の授業をふまえて、作業には様々な工程がある。ローテーションで、別の工程を経験するよう組まれているのか。
 - 地域の方との「人間関係・社会形成能力」を育む活動（地域貢献活動）について、今年度どのような取組をされるのか知りたい。
- 事務局
(本校)
- 生徒の実態による。特定の作業を続けていた方が良いと考えられる生徒については、同じ作業を繰り返し取り組んでいるが、様々な経験を積み上げた方が良い生徒については、複数の工程の作業に取り組んでいる。また、授業の最初に作業内容の説明を行った上で、生徒自らが申し出た作業に取り組んでもらう機会もある。生徒の実態、作業の工程、人数等を考慮した上で、教員が調整している。
 - 等部で昨年度に引き続き取り組む予定である。内容の確認、把握した上で、後日詳細をお伝えする。
 - 高等部での地域貢献活動として、縫製の授業で製作した座布団を道の駅で使っていただいたり、こども食堂にクッキーを届ける活動を計画している。
- 委員
- 小・中学校で支援の必要な児童生徒が増えている印象を持っている。本校の取組における「センター的機能の充実を図り、特別支援教育の理解や啓発を推進する」ことについて、地域の小・中学校とどのような関わりをもたれているか知りたい。
- 事務局
(本校)
- 本校には、特別支援教育巡回相談員が2名いる。小・中学校から、特別な配慮が必要と考えられる児童生徒の指導について助言がほしいとの要望があれば、巡回相談員を派遣する。巡回相談員は、児童生徒を観察した上で、指導・支援方法について助言させていただいている。また、学校全体として、特別支援教育に関する教員研修の要望があれば、講師として研修を行っている。
 - 国の調査より、「障がいの診断はないが特別な配慮が必要である」と教員が感じている児童生徒の割合（小・中学校）が8.8%との報告がある。このことから、教師に求められる資質・能力として、「特別な配

慮や支援を必要とする子供への対応」も追加されており、全ての教員が特別支援教育について学ぶ必要があるとなってきた。特別支援学校においては、特別支援教育に関する専門的な知識を地域の先生方にお伝えすることが、センター的機能のひとつであると考えている。

事務局
(分校)

○巡回相談員は分校にも1名配置されている。主として、本校は三好郡・市の地域の学校から、分校は美馬郡・市の地域の学校から相談が入るようになっている。

委員

○美馬分校の課題と傾向にある、「不登校、登校をしぶる生徒への進路を見据えた指導」をどのように行っているのか。

事務局
(分校)

○担任が保護者と連絡をとり、保護者の協力をいただきながら、曜日や時間を限定して登校日時を設定している。不登校の理由はそれぞれであるが、例えば、動画の視聴時間のコントロールができず昼夜逆転しているケース、地域社会で人と関わることが苦手なため出られないケースなどがある。3年間のうちに少しずつ登校することが増えるケースもある。就業体験実習期間には、生徒の実態に合わせて事業所に行く日数や時間を設定し、社会とつながりが持てる機会を設定することもある。

事務局
(分校)

○入学前の中学校段階で不登校であった、または不登校傾向であった生徒が、美馬分校に入学してくる割合として、例年全体の40%程度である。個々に応じた学習環境や指導内容を設定することで、そのうち半数近くの生徒は適応し、登校できるようになる。継続して不登校、不登校傾向の続く生徒については、どのように社会参加を促すか検討し試みている。例えば、就労継続支援B型事業所への見学や作業の体験をすること、学校に登校できない生徒については、週に1回程度家庭訪問し、自宅で委託作業を試すことなど、卒業後の生活に近い経験ができるような取組を行っている。卒業後の生活で福祉サービスとつながりやすいよう、卒業間近には、保護者、本人と地域の相談支援専門員とを交える機会を設定している。

委員

○地域と連携したPTA活動の充実として、PTA（保護者）がどのように関われば良いか考えていきたい。どのような取組を考えているか知りたい。後日でも良いので教えてほしい。

- 委員 ○授業見学の中で、iPadを活用して自分で作品作りに取り組んでいる姿を見て、衝撃を受けた。池田学園と同じ法人にあるB型事業所において、学校で学んだことが卒業後うまく活用できていないことを痛感した。作業をしている様子を見て子どもたちの力を実感した。
- 委員 ○子どもたちがコツコツと一生懸命取り組んでいる姿を見て、感動した。以前、小学部の子どもたちとペットボトルの回収などに共に取り組んでいた。現在、婦人会として、地元の小学校では本の読み聞かせを行っている。また、小学校の児童クラブ利用の子どもたちと100歳体操に参加する高齢者、婦人会と一緒に、七夕交流会を予定している。また、池田支援学校の子どもたちとの交流を広め、チャレンジしていきたいので、学校からどのような交流ができるか提案してほしい。
- 事務局
(本校) ○コロナウイルス感染症の流行以前は様々な交流を行っていた。今後、改めて交流を深めていけるよう検討していきたい。
- 委員 ○グランドデザインが大変良い。保護者の要望や県西部の特別支援教育を一手に引き受けている社会的使命を受けて、「地域を元気にする人間を育成する」視点が妥当である。
- 学校評価プランについて、本校の取組において学部間の系統性があり、素晴らしい。目標が年々明確になっている。目標が達成できるように、指標も改善されてきている。達成度が測れるようになっている。
- 小学部の「児童生徒が目標達成し」と表記されている部分について、何がどうなれば達成なのかということが評価指標として明確に表現されていると、年度当初で立てた目標が年度末にどのくらい達成できたのか、できてないのかが分かる。さらに、達成できてなければ何を改善すればよいのかということが、より明確になる。達成できていれば何が良かったのかということも明確になる。
- 分校については、子どもにどうなってもらいたいかという表現に改善された。個別の指導計画で一人一人の子どもの目標達成度で評価される点が良い。
- 「地域を元気にする」と目標を掲げてから、年数が経ち、協議する中で、実現した取り組みもいくつかある。ここ何年かの地域連携活動をリストアップし、増えたり減ったり質が変わったりしたものの一覧があると、それぞれの何を加えたり修正したりしたらいいかのアイデアが浮かびやすくなるのではないかと考える。グランドデザインを達成するための地域連携活動のアイデアがより一層分かりやすくなるのではないだろうか。

- 委員 ○今年度の様々な目標プランについて、昨年度の成果・課題から今年度の目標を設定したということの説明があると、なぜ今年度の目標が設定されたのかが分かりやすい。今年度設定した目標が昨年度の振り返りから設定されたことの説明や資料の作成ができることで、毎年少しずつ良い学校に、より加速してなることができると考える。PDCAサイクルのCheckとActionがよりよく機能するのではないか。
- 委員 ○見学していつも感じるのは、ものづくりの完成度が高い、丁寧であるということ。また、真面目にひとつひとつの過程に取り組み、ひとつのものが完成している点がすばらしい。ケアプラザ美馬にも支援学校から就職された方がいる。在学中にこのような経験をしているからこそ、就職してからもひとつずつ過程を伝えていくことで、時間はかかるものの、最終的に校訓にある「ひかり輝く」職員となっている。就職に関しては、その人に合った仕事をチョイスすることは難しいと感じた。支援学校から就職した人は、同じ行程を続けて働くことで力を発揮している。今後、障がいのある方に対して、事業所内でどのようなことができるのか、どのような業務を増やしていけるかを考えるきっかけとなった。
- 委員 ○美馬分校にて、紙すきにぜひ取り組んでほしい。大きな作品など、チャレンジしていただけたらいいなと思った。
- 委員 ○わが子も中学生の時に不登校であった。学校に行けない理由を、保護者は友人関係かと考えていた。しかし、本人は勉強が嫌であったことが分かった。板書など書字が苦手である中、宿題がプレッシャーであった。学校では、子どもに必要な社会生活に関する学習ができる。入学してから継続して登校できている。その子に合ったスペース、場所を作ることは困難であるが、どの子にもそのような居場所ができたらいいいなと思った。

4 各部会における協議(説明のみ)

- 事務局
(本校) ○徳島県立池田支援学校運営協議会要綱第8条について説明。
- 進路先の新規開拓が課題である。企業、事業所等の求人情報や支援学校に関心のある会社等の情報があれば紹介していただきたい。